

柵の木からの手紙

2023年 弥生 3月号

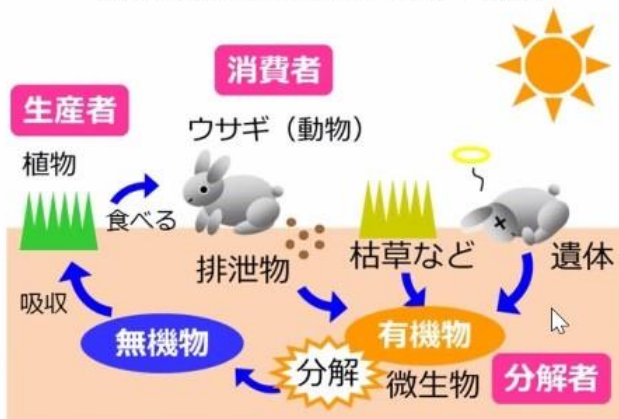


- 6日： 啓蟄
- 7日： 満月 :旧 2月16日
- 11日： 東日本大震災
- 21日： 春分
- 22日： 新月 :旧 閏2月 1日

この冬の藻琴山はそれ程白くならなかった気がする。時折やって来る暖気。2月下旬過ぎには最高気温が3月・4月中旬並みに成りました。

3月4日、自然農法畑に醗酵鶏糞ペレットを融雪剤代わりに散布しました。毎年行っている事ですが、昨年秋に散布した粒状脱脂ヌカと共に土壌微生物の餌となり雪が融ける頃には糸状菌が繁殖している事を想像しています。

物質循環と土壌微生物の機能



土壌微生物は分解者 (有機物を無機物へ)

年々に桜を肥やす花の塵(芭蕉)

2023年HOSK (北海道オーガニック推進協議会) (有機JASの認証団体のひとつ) を囲む会の総会が2月14日午後札幌で開催され、私は家でパソコン通信で参加しました。

東京農大元教授吉羽雅昭氏の「土と肥料を見直す」の中で小田原市の「小田原有機の里づくり協議会」の石綿敏久氏の有機圃場と慣行農法の圃場の雪融けの比較写真からスタートしたセミナー。話の中で「江戸時代の人々は、芭蕉の句に見られる様に自然界の循環を理解していた。」といひます。土壌は自然の循環に重要な役割を持っています。土の中で生きる微生物達の営みによって地上や海中・水中の生命の平衡が維持され自然循環が保たれています。化学肥料は、土壌微生物の餌にはならず、地力を低下させる一方だといひます。

赤ビーツを作り始めて感じています。ビーツの味の違い。俗にいう嫌厭される原因「土臭さ」。生産者によってビーツの味が違います。土壌微生物の暮らし易さが作物の生き易さに影響して味が違うのかもしれない。

